没後60年記念

陶工 河井寛次郎の息吹

関門海峡ミュージアム企画展

美を追わず
美に追われる
色とかたち

令和8年
10月1日［木］～11月29日［日］
※休館日／11月10日［火］

開館時間／9時～17時（最終入館16時30分）

会場／関門海峡ミュージアム 1階多目的ホール

観覧料／無料

主催／門司港共創プロジェクトチーム共同事業体

協力／河井寛次郎記念館



《三色打薬扁壺》昭和36年頃
河井寛次郎記念館蔵

門司港レトロ
MOJIKO RETRO

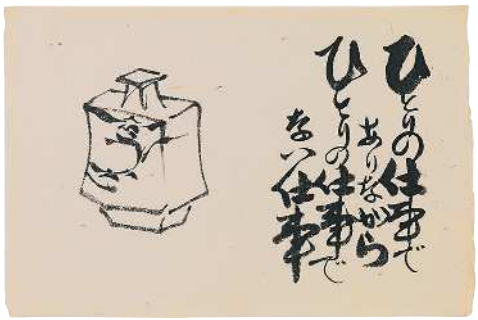
関門海峡ミュージアム
〒801-0841北九州市門司区西海岸1-3-3
https://mojiko-retoro9.jp

関門海峡ミュージアム
企画展

没後60年記念

陶工 河井寛次郎の息吹

～美を追わず 美に追われる 色とかたち～



《「いのちの窓」より（詞句・複製）》昭和23年頃


《練上鉢》昭和31年頃


《碧釉蓋物》昭和40年頃


《塗分食籠》昭和24年頃


《木彫像》昭和29年頃


《青瓷鯖血文桃注》大正11年頃


《辰砂窯変筒描花文碗》昭和25年頃

※所載作品、画像はすべて河井寛次郎記念館蔵

【 門司図書館協力 関連イベント 】

講演会「河井寛次郎の陶芸＋門司港の建築／いろとかたち」

大正から昭和にかけて活躍した河井寛次郎。同じ頃、国際貿易港として発展を遂げた門司港には、多くの船来文化が根付き、独特の"いろとかたち"を有する洋風建築が建ち並ぶ景観が形成されました。前半は寛次郎作品、後半は門司港の建築デザインの楽しみ方についてお話しします。

日時／**10月31日（土）** 10:00～11:30
講師／関門海峡ミュージアム学芸員
会場／門司図書館2階視聴覚室（北九州市門司区老松町3-3）
※会場は関門海峡ミュージアムではございません。

定員／**30名**
聴講料／**無料**（申込先着順）
お申込み／**門司図書館 ☎093-321-6515**


河井寛次郎［自宅庭 昭和16年頃］

陶器を見かけると、まずは「何焼？」「どこの窯元？」などの系譜や産地を聞いた上で鑑賞する人も多いでしょう。しかし、河井寛次郎の作品は一味違う。既成概念にとらわれない独自の作風で、大正時代から昭和時代にかけて注目を集めた陶芸家の一人です。

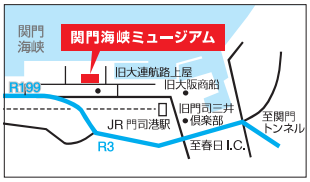
河井寛次郎（1890-1966）は島根県能義郡安来町（現：安来市）に生まれ、叔父の勧めで陶芸家を志して上京します。東京高等工業学校（現：東京科学大学）を卒業後、京都市立陶磁器試験場に就職。陶磁器における釉薬の技手として従事しながら、作陶全般に励みます。大正9（1920）年、五代目清水六兵衛より登り窯を譲り受け、住居も構えて生涯にわたり京都で創作活動を続けました。

寛次郎は中国・朝鮮の古陶磁器に倣った作品づくりに始まり、のちに躍動的なデザインの陶器づくりに挑みます。さらに、陶芸だけでなく書画や木彫なども手がけました。また、大正15（1926）年には柳宗悦（やなぎむねよし）や濱田庄司らとともに「民藝運動」を立ち上げ、物質的な豊かさだけでなく、庶民が使う器や家具などの日常品に宿る美しさを世に広める活動にも力を注ぎました。

本展では、河井寛次郎が生み出した「色」と「かたち」に焦点を当ててご紹介します。寛次郎の息吹が込められた作品たちをどうぞご堪能ください。

関門海峡ミュージアム

〒801-0841北九州市門司区西海岸1-3-3
開館時間／9：00～17：00（最終入館16：30）



《交通のご案内》
◆JR門司港駅より徒歩約10分
◆九州自動車道門司IC、
北九州都市高速春日ICより車で約8分

●お問い合わせ／
門司港レトロ総合インフォメーション
☎093-321-4151
（受付時間／9：00～17：00）

門司港レトロ観光9施設の情報はこちら！

公式HP　X　Instagram